



①犬山城 ②名港トリトン ③半田赤レンガ建物 ④ひつまぶし



移転が必要となりますが、移転は「清洲越し」と呼ばれています。この「清洲越し」では家臣や町民のみならず、神社・仏閣も社寺3社、110寺、清洲城下の町屋約2,700戸のほとんどが移転したというのですから、都市全体を巻き込んだ大変な「お引越し」であったことが想像できます。

建築当時の天守閣は5層5階、地下1階であり、高さは55.6m（およそ18階建ビルに相当）でした。高さでは当時、江戸城、大阪城には及びませんでしたが、延べ床面積では4,424.50㎡と史上最大規模を誇りました。そして、この天守閣の屋根には、金の板を張り付けた金鯰（金のしゃちほこ）が載せられました。

この天守閣は、1612年に完成し、その後、幾度かの震災、大火、明治維新後の廃城も逃れていましたが、1945年の空襲で焼失してしまっています。

そして、戦後、名古屋市制70周年の記念事業として、昭和34年に現在の名古屋城が築城されました。

現在の名古屋城は鉄骨鉄筋コンクリート造、5層7階建、さらにエレベーターが完備され車椅子でも5階まで登れるバリアフリー構造となっています。広いだけでなく、優しさも兼ねそろえた城であるからこそ、新しい名古屋城も県民に愛されているのでしょう。

また、天守閣の南側にあった本丸御殿の復元工事が、総工費150億円をかけて行われており（平成30年完成予定）、一部は既に公開されています。その他、全国的に有名なイケメン集団「名古屋おもてなし武将隊」とも会うことができます。名古屋を大都市にまで育てた名古屋城、愛知にお越しの際には、ぜひ一度足を運んでいただきたいと思います。

（佐藤和徳）

どです。国内的には徳川家康の生誕地である岡崎市も有名です。

これらの愛知県の特徴について、一部ではありますが、以下においてご紹介したいと思います。

（水野聡史）

2. 名古屋といえば名古屋城！

「尾張名古屋は城で持つ」といわれるほど地元で愛されている名古屋城。16世紀前半に今川氏親が尾張進出のために築いた柳ノ丸がその起源とされています。その後、一度廃城し、尾張の中心は長らく清洲城（清須市）でしたが、江戸時代に徳川家康が九男の義直の移城として名古屋に城を築くことを決定し、名古屋城が築城されました。築城後、清洲城から名古屋城への



名古屋城（提供…名古屋観光コンベンションビューロー）

いっぺんきてみやー、愛知県

公益社団法人愛知県不動産鑑定士協会 広報委員会

1. 愛知県のあらまし

愛知県は、日本のほぼ中央に位置し、人口も全国4番目に多く、中部地方を代表する県として発展してきました。愛知県の西部は概ね平地が広がり、東部には標高1,000mを超える山を有するなど山岳地帯が広がります。さらに、南に面する太平洋には、渥美半島と知多半島がせり出しており、両半島に囲まれた三河湾では、海産物が豊富で漁港も多く見られます。

また、愛知県は、尾張地方と、三河地方に分かれており、それぞれに名古屋弁、三河弁などといった方言もあるなど、地域ごとの特色が強く、多様性のある県といえます。

尾張地方は、中部地方の中心都市である名古屋市を有し、近年では、「名古屋めし」や、東

山動植物園の「イケメンゴリラ」などで注目を浴びることが多くなり、また名古屋城の本丸御殿を再現するなど、観光客増加に力を入れています。近年では、リニア計画の進行に伴い、名古屋駅周辺において、急速に開発が進められ、地価公示や地価調査の発表時になると、毎年のように地価上昇率で上位となるなど、注目度の高い地域です。尾張地方の名古屋市以外の市町村は、名古屋市のベッドタウンとしての機能が中心となっていますが、陶器の「せともの」で有名な瀬戸市や、国宝の犬山城を有する犬山市などは、市の強みを生かして独自の街づくりを進めています。

また、三河地方は、トヨタ自動車を代表する自動車産業が盛んで、世界的には名古屋市よりも豊田市のほうが、認知度が高いといわれるほ



左/東山動植物園 ゾウ列車
上/東山動植物園 シャバーニ (提供: 東山動物園)

3. イケメンゴリラで大人気の東山動植物園

SNSでのつぶやきから、各種マスコミに取り上げられ、全国区の人気者になったイケメンゴリラことニシローランドゴリラのシャバーニは、名古屋市東山動植物園にいます。

東山動植物園は、名古屋市千種区に所在し、59.58ha（動物園32.21ha、植物園27.37ha）の広大な敷地面積に、動物約500種、植物約7,000種を有します。

明治23年（1890年）に、動物商の今泉七五郎氏が始めた「浪越教育動物園」を起源とされ、今泉氏から譲渡された動物を元として、大正7年（1918年）に名古屋市昭和区の鶴舞公園において「名古屋市立鶴舞公園附属動物園」として開園したのが始まりです。昭和12年（1937年）に現在の名古屋市千種区に移転し、戦前は、ゾウ、キリン、ホッキョクグマ、カバ、シマウマなど、数多くの動物を揃え、「東洋一の動物園」とも呼ばれていました。

戦時中は、治安維持のために猛獣類の射殺が命じられ、餌不足による餓死などもあり、ゾウ2頭、チンパージー1頭を含む5種26点まで動物の数は激減しました。この東山動植物園

の2頭のゾウ「エルド、マカニー」は、終戦後、日本で生き残った唯一のゾウとなり、ゾウのいなくなった東京の子どもたちから、「ゾウを1頭譲渡して欲しい」との嘆願運動が起こりました。

そして、上野動植物園の園長が来名し、東山動物園の園長や名古屋市担当局との交渉の上、ゾウを貸与することとなりました。しかし、マカニー、エルドの結びつきが強く、2頭を引き離しにかかる、残されたエルドは、頭を壁にぶつけ血を流して抵抗し、悲しい、大きなラッパ音をとどろかせ気が狂ったように暴れたため、貸与することはできませんでした。その後も陳情が続く中、東京、名古屋の両都市、国鉄の間で、「名古屋ゾウを見学するための列車を走らせる」という計画が持ち上がり、実現したのが、「ゾウ列車」です。

昭和24年（1949年）6月、「ゾウ列車第1号」が、彦根市の子どもたちを乗せて名古屋にやってきました。ついで、東京都、三重県、埼玉県等、相次いで「ゾウ列車」が名古屋に到着しました。「ゾウ列車」は全国の子どもたちに夢と希望を与えました。

昭和59年（1984年）には、日本で初めてのコアラが来日し、コアラ舎の前には連日長蛇の

行列ができ、コアラブームが起きました。この時、現在もロングセラーとなっているロッテのお菓子「コアラのマーチ」も発売されています。昨年（2015年）は、ニシローランドゴリラ「シャバーニ」が「イケメンゴリラ」として大人気となり、平成27年度の来園者数は、前年度比30万人増の258万人を達成し、上野動物園に次ぐ全国2位の来園者数を記録しました。

来年2017年は、開園80周年を迎え、さまざまな催事も計画され、益々の賑わいが期待されています。名古屋にお越しの際は、ぜひ、お立ち寄りください。

(服部寿治)

4. 愛知県が誇る食文化

名古屋を中心とする愛知県内には独特な食文化が存在します。みなさんも一度は「名古屋めし」という言葉を耳にしたことがあるのではないでしょうか。ウィキペディアで調べてみると、「名古屋めしとは、愛知県名古屋市を中心とする中京圏が発祥の食文化、もしくは他地域から中京圏に持ち込まれ発展した食文化を指す造語」と説明されています。

代表的な料理としては、ひつまぶし、手羽先

の唐揚げ、味噌カツ、味噌煮込みうどん、台湾ラーメン、あんかけスパゲッティ、小倉トースト、ベトコンラーメンなどが挙げられます。これらの名古屋めしはどれも濃口で、味にガツンとパンチがあるのが特徴です。名古屋めしにこのような味の濃い料理が多いのは、中部地方（愛知・三重・岐阜）の豆味噌（赤味噌）文化と密接な関わりがあります。

味噌は使用する原料によって大きく米味噌、麦味噌、豆味噌の3種類に分けられます。全国的には米味噌が使われることが多く、九州・四国地方の一部では麦味噌、そして中部地方のみ豆味噌が使われています。豆味噌の代表的なものとしては岡崎の八丁味噌が挙げられます。豆味噌は製造過程において、長期間天然醸造し、腐敗を防ぐために塩分濃度を高めているため独特の渋みとうまみがあるのが特徴です。中部地方では家庭の味噌汁に豆味噌（赤だし）が使用されるのが一般的であり、愛知県民にとって豆味噌はおふくろの味といえます。

こうして、名古屋めしの特徴であるはっきりとした濃口の味付が、豆味噌文化を背景にもつ県民に受け入れられ、独自の発展を遂げた結果、愛知県の誇る食文化に育ったといえます。

(辻 憲作)



名古屋めし (提供: 名古屋観光コンベンションビューロー)



大須
(提供：名古屋観光コンベンションビューロー)

5. 大須について

「大須」という地名は「大須観音」に由来し、「大須観音」は、日本三大観音(大須観音、浅草観音、津観音)の1つに数えられています。

「大須観音」は、初めは現在の岐阜県羽島市にありましたが、慶長17年(1612年)のいわゆる清洲越しに伴い現在地へ移転しました。当時の岐阜県羽島市は水害が多かったことから、この移転には大須観音が所有していた「真福寺本古事記」(古事記の最古写本)などの貴重な書籍を守るといった目的があったとされています。

移転後の江戸時代には名古屋城下・西の寺町として大須周辺が栄え、大正期以降は歓楽街として隆盛を極めるものの、第二次世界大戦での名古屋大空襲で街のほとんどが焼失してしまいました。戦後復興を遂げるも、隣接する栄地区の発展等に伴い一時的に衰退期に入りましたが、1970年代後半からの電気店の集積を皮切りに独自の商業地域の形成が進み、近年では、大須商店街には約1,200の店舗・施設があります。大須商店街は歴史的施設・街並みと、ファッション、パソコン、サブカルチャーといった若者主体の文化が併存・融合した、まさに「ごった煮」の雰囲気があり、栄地区、名駅地区等とは異なる独特の商業地域を形成しています。

また、「大須」には日本最大級のリサイクル

ショップの「コメ兵」や味噌かつの「矢場とん」、「大須ういろ」など全国的にも有名な名古屋を代表する店が本店を構えており、今後のさらなる発展が期待される街です。

(小椋真一郎)

6. 世界のトヨタ

(1) 企業城下町「豊田市」

全国にいわゆる企業城下町は、いくつかあります。ただ、「世界のトヨタ」ともなれば、そのスケールは半端ありません。もともとは「挙母(ころも)」市だった地名を「豊田」市に変えてしまっているのです。なんとといっても、トヨタの本丸、トヨタ自動車(株)本社の所在地は「豊



トヨタ博物館
(提供：名古屋観光コンベンションビューロー)



豊田産業技術記念館
(提供：名古屋観光コンベンションビューロー)

田市トヨタ町1」。住所を聞くだけで、どの会社があるか想像つきますね。私的企業(団体)名が付けられた「市」は、豊田市と奈良県天理市の2つだけだそうです。

(2) 愛知県民はトヨタの休みに敏感です。

「トヨタカレンダー」はトヨタ関連の工場稼働カレンダーです。トヨタカレンダーに祝日休みはなく、「週5日の営業日+休日2日」が基本です。祝日休みがない代わりに、年末年始やお盆などで長期間休めるのが特徴です。トヨタ本体がトヨタカレンダーで動けば、当然その子会社、下請け、孫請けも合わせて動きます。その関係者数は膨大で、トヨタの休みの日は通勤時間帯の車の量が明らかに変化します。「今日から、トヨタ休みだっけ?」という会話は自動車関連企業でなくても普通であり、大抵、「トヨタ11連休だってよ」という愚痴がセットになります。

(3) 「トヨタ産業技術記念館」がおすすめです。

旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」の工場見学ランキングで、「トヨタ産業技術記念館」が2年連続で1位に輝きました。トヨタの技術変遷を学ぶことができる施設です。これがなかなか玄人向きで、自動織機の組立ラインの展示や金属加工の実演もあり、大人男子が興奮します。※当館は名古屋市にあります。

(浅田勝利)

7. 手筒花火発祥の地、豊橋市「吉田神社」

轟々と巨大な火柱を上げ、火の粉を降らし、爆音とともに炎が筒底から吹き出す「ハネ」により締め括られる三河伝統の「手筒花火」。初めて見る方は、そのあまりの迫力に圧倒されるのではないのでしょうか。

長さ約80cmの孟宗竹に縄を巻き締め火薬を詰めたこの手筒花火は、豊橋市(旧三河吉田藩)の吉田神社が発祥の地といわれ、現在では、豊橋祇園祭の一環として打上花火とともに吉田



豊橋手筒 (提供：豊橋観光コンベンション協会)

神社の神事として奉納されるほか多くの祭礼等で奉納されています。また、終戦70周年である平成27年には、靖国神社神門前にて、火薬が再び武器として使われることのないようお願い、豊橋祇園祭奉賛会による手筒花火の奉納が行われました。

愛知県の東南端に位置する豊橋市は、徳川家康の出身地である三河地方にあり、火薬に関する規制が寛容であったこともあり花火の技術が発達したものとされています。江戸時代には、水戸の花火（現茨城県水戸市）、市川の花火（現山梨県市川三郷町）と並び三河吉田の花火（現愛知県豊橋市）は「日本三大花火」の1つとされていました。

今なお伝統を受け継ぎ、揚げ手自ら竹を切り出し、縄を巻き、火薬を詰め、全身に火の粉を浴び、手筒花火を奉納する氏子の勇姿が、豊橋市の季節の風物詩となっています。

（古田尚也）

8. 愛知県及び名古屋市の地価動向

愛知県内の土地価格の推移・動向については、リーマンショック後の平成25年以降、全体としては住宅地、商業地ともに上昇傾向にあり、地価は安定的に推移していると言えます。

平成28年度の住宅地における地価上昇率は上位から、日進市、みよし市、長久手市、豊明市、大府市、刈谷市、名古屋市、知立市、豊田市、岩倉市、大口町、江南市、安城市、瀬戸市、春日井市、高浜市、一宮市、北名古屋市、東郷町、岡崎市、阿久比町、尾張旭市、東浦町、小牧市、清須市、扶桑町、東海市、稲沢市の順となっており、最大で前年比4%弱程度の上昇率を示しております。これに対して、地価下落率は、蟹江町、愛西市、半田市、飛島村、豊橋市、犬山市、津島市、常滑市、武豊町、豊川市、知多市、蒲郡市、豊根村、田原市、東栄町、新城市、南知多町、設楽町、美浜町の順に下落して



都市景観
（提供：名古屋観光コンベンションビューロー）

おり、最大で前年比5%強程度の下落率を示しております。

名古屋市及び日進市、長久手市等の尾張地域並びに豊田市、みよし市等の西三河地域が比較的堅調に推移しておりますが、これは、名古屋圏の景気を背景として、区画整理の進んだ地域の需要が強含みとなっていることが1つの要因として挙げられます。一方、標高が低く、大地震による津波等に対する影響が懸念される地域については、引き続き地価が下落する傾向が認められます。

平成28年度の商業地における地価上昇率は上位から、名古屋市、日進市、豊明市、長久手市、一宮市、刈谷市、岡崎市、小牧市、西尾市、江南市、大府市、岩倉市、豊田市、知立市、春日井市、安城市、常滑市、豊橋市、東浦市、清須市、稲沢市の順となっており、最大で前年比5%超程度の上昇率を示しております。これに対して、地価下落率は、弥富市、半田市、知立市、武豊町、豊川市、蒲郡市、美浜町、田原市、新城市、南知多町、設楽町の順に下落しており、最大で前年比6%強程度の下落率を示しております。

名古屋市については、特に名古屋駅周辺エリアにおいて、大名古屋ビルヂング、JRゲートタ

ワー、JPタワー名古屋など大型ビルの竣工ラッシュや2027年開通予定のリニア中央新幹線などの大型投資が連続していることを背景に前年比30%前後の上昇率を示しています。その他、名古屋駅周辺エリアに次ぐ栄エリアにおいても、大型店舗施設が出店しており、また、老舗デパートやブランド店、ファッションビルが連立し、引き続き繁華性が高いことを背景に前年比10%から20%程度の上昇率を示しています。なお、金山エリアについては、金山総合駅において、1日約40万人が利用しており、名古屋駅に次ぐターミナル拠点として発展しています。繁華性も高く、賃貸需要、取引需要ともに旺盛な地域であることを背景に前年比20%程度の上昇率を示しております。名古屋市以外の商業地においては、土地区画整理事業に伴う区画整理により新規店舗参入となった地域や、名古屋駅に直結する地域について、上昇する傾向にあります。一方で、知多地域や東三河地域については、一部の既成近隣商業地域において、シャッター街が散見されるなど繁華性の低い地域が点在することから下落傾向にあります。

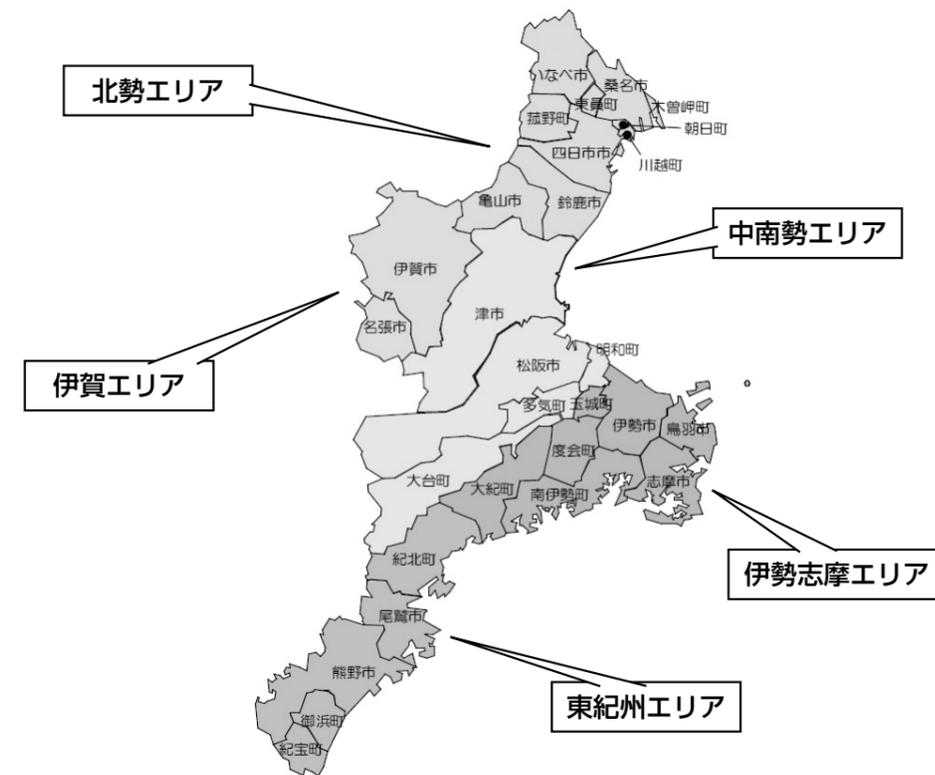
（安達 直樹）



都市景観（提供：名古屋市）



①松阪牛 ②伊賀上野城 ③熊野大花火と獅子岩 ④赤福



美味しい・楽しい・心地よい 三つが重なる、三重県

一般社団法人 三重県不動産鑑定士協会 吉田 望実

1. はじめに

今年の三重県の目玉は、何といても5月26日・27日に志摩市で開催されました「伊勢志摩サミット」でしょう。サミットの開催期間や開催前は、会場となる賢島への出入りは相当厳しく、電車などの交通機関も制限されていました。また車で通行するドライバーの持ち物は厳しく検査されるなど、全国の警察官が集まり厳戒態勢を敷いていました。おかげさまで無事サミットが終了し、地元住民の方はホッとしていることと思われます。

この伊勢志摩サミットの開催で伊勢志摩や三重県のことを世界中で報道され、一気にその地

名度は上昇しました。今までは、三重県の地名で伊勢、鈴鹿、伊賀などは県外の人に聞いても、「あっ、そこ知っている」という返答はありました。では、この地名はどこかの都道府県に属しているかと尋ねてみると「三重県」と答える人は少ない状況にありました。有名なスポットは多いですが、三重県の場合すら知らない人が多いのも現状です。

食べてよし、遊んでよし、住んでよし、そんな三重県の魅力を紹介致しましょう。

2. 概要

日本のほぼ中央の太平洋側に位置する三重県は、紀伊半島東部に沿って南北約170km、東

西約80kmと南北に細長い、人口181万人の県です。県土のほぼ中央を流れる檜田川に沿った中央構造線を境に、自然環境も北部と南部で異なります。北部では東に内湾の伊勢湾が広がり、北西には雪がよく降る養老、鈴鹿、笠置、布引などの山脈・山地が連なっています。一方、南部の東は志摩半島から熊野灘に至るリアス式海岸が続き、西には県内最高峰1,695mの日々ヶ岳（大台ヶ原山）を中心に「近畿の屋根」と称される紀伊山地が連なるなど、多彩な風土のもと、美しく豊かな海、山、川の自然に彩られています。

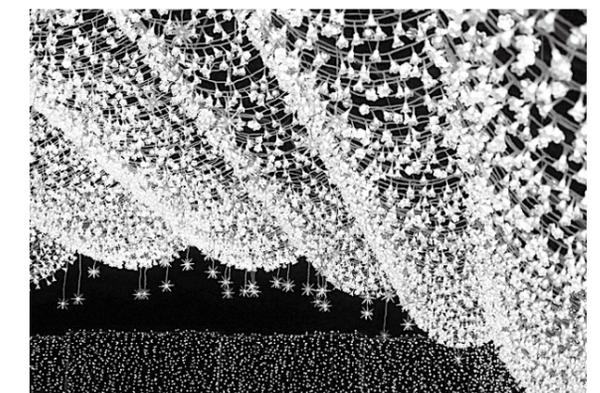
その一方で、中京や関西圏ともほど近く、人口10万人を超える都市機能を備えた市も多く、市街地と郊外の自然をほどよく併せ持っています。

また、南北に細長い三重県では概ね5つのエリアに区分され、それぞれのエリアにおいては独自の文化が形成されています。

(1)北勢エリア

三重の北部で、名古屋に近い地域です。四季

折々の表情を見せる「御在所岳」や、その麓に広がる「湯の山温泉」など、自然豊かなエリアです。同時に、日本有数の遊園地「ナガシマスパーランド」、F1日本グランプリや8耐が開催される「鈴鹿サーキット」、ウインターイルミネーションが輝く「なばなの里」などのアミューズメントスポットも充実し、さまざまな楽しみ方ができます。



なばなの里

(2)中南勢エリア

三重の中央に位置するこの地域は、枕草子に

も日本三名泉のひとつと記された「榊原温泉」があるほか、伊勢神宮に仕えた齋王が暮らし「齋宮跡」、「松坂城跡」や「武家屋敷」などの古い町並みが残る歴史的なエリアです。また、清流宮川の源流「大杉谷」は美しい溪谷美を残し、新緑や紅葉の時期は特に賑わいます。さらに、世界のブランド「松阪牛」の本場、松阪では肉料理の専門店が軒を連ねるなど、歴史・文化、自然、そして美食が堪能できます。



大杉谷

(3)伊賀エリア

関西地方に近いエリアです。忍者の里で有名な伊賀。上野公園内には、「上野城跡」や忍者屋敷「伊賀流忍者博物館」があり、手裏剣打ちなどの「忍者体験」もできます。さらに、俳聖「松尾芭蕉」の生誕地でもあり、旅姿をモチーフに



俳聖殿

した「俳聖殿」などがあって、奥深いです。また、日本の滝百選、森林浴の森百選に選ばれる名瀑「赤目四十八滝」、大自然で忍者修行体験ができる「忍者の森」、ぶどう狩りや、いちご狩りが人気の「青蓮寺湖」なども注目です。



夫婦岩

(4)伊勢志摩エリア

三重の南東部に位置するエリアです。古くから、日本人の心のふるさととして親しまれる「伊勢神宮」をはじめ、土産物や飲食店が軒を並べる「おはらい町・おかげ横丁」、二見浦の「夫婦岩」など、時代を超えて人々の心を魅了します。また、複雑に入り組んだリアス式海岸が美しく、昔から「御食(みけ)つ国」と呼ばれる、新鮮な魚介類の宝庫です。御利益とグルメめぐりで、心身ともにリフレッシュできます。

(5)東紀州エリア

雄大な自然が残る、南端エリアです。平安から江戸時代にかけて、熊野三山をめざす参詣者が歩いた巡礼の道・熊野古道は、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、苔むした石畳が今に残っています。熊野古道をより深く体感できる熊野古道センターは、東紀州の一大交流拠点となっています。また、「鬼ヶ城」「獅子岩」「楯ヶ崎」などの奇岩、日本一長い砂礫海岸「七里御浜」、日本の棚田百選にも選ばれている「丸山千枚田」など、見どころ満載です。

3. 三重の食

天照大御神に愛された「うまし国」、三重県。新鮮な海や山の幸に恵まれ、美味しい料理を楽しむことができます。各地のグルメをエリアごとにご紹介します。

(1)北勢エリア

①桑名市の蛤

旧東海道桑名の宿の一角の、海の浅瀬、干潟、砂地でとれるのが桑名名物の蛤です。実は大きくて柔らかく、口に含むとほのかな甘みと独特の風味が広がります。その美味しさは「浜の栗」と称され、吸い物は桃の節句や結婚式に用いられるおめでたい味覚です。

②四日市市のとんてき

四日市のご当地グルメ「とんてき」。分厚い豚肉をにんにくと一緒に濃い目のたれでソテーし、たっぷりのキャベツの千切りをそえていただきます。調理法や味付けは、お店によって実に千差万別です。

③亀山市の亀山みそ焼うどんと亀山ラーメン

うどんを野菜や肉と一緒に鉄板等で焼き、赤味噌ベースの味噌ダレで味付けしたもの。味噌はお店独自の調合があり、さまざまな味が楽しめます。

亀山ラーメンは、独自のブレンド味噌をベースとした牛骨味噌ラーメンです。麺には三重県産小麦「ニシノカオリ」を原料にしたものを使い、具材にも三重県産きのこ三種（はなびらたけ、はたけしめじ、ひらたけ）を用いています。

(2)中南勢エリア

①津市のうなぎ

市内だけで20軒以上ものうなぎ料理専門店があります。過去には1人あたりのうなぎの消費量が日本一となるほど、味自慢の店が揃います。店により味付けが少し変わります。うなぎの食べ歩きはいかがでしょうか。

②松阪市の松阪牛

誰もが知っている超有名牛肉です。肉は口の中で溶けます。有名店ですき焼きを注文すると目の前で調理してくれます。先に肉から焼き、味付けは砂糖と醤油です。肉を焼くときに多めの砂糖を使いますので、知らないお客さんはビックリ。このためか最近では砂糖の量を控えているようです。

また、松阪牛を使った焼肉は絶品です。特にホルモン焼きはクセになります。松阪駅前にはホルモン専門店が軒を連ねています。各店によって「タレ」が違うことが特徴です。

(3)伊賀エリア

①伊賀市の伊賀牛

松阪牛に劣らぬ美味しさ。「肉の横綱」とも言われる伊賀牛は鮮やかな肉色、芳醇な香りとコク、とろけるような柔らかさが特徴となっています。

②名張市の牛汁

伊賀肉と地元野菜を入れた醤油だしのお吸い物で、まかない食が発祥の「名張牛汁」。飲食店によりさまざまな味があり工夫を凝らしたバリエーションで提供しています。

③日本酒

この地域の日本酒は、寒暖の差が大きく酒造りに適した気候のもと、良質の伊賀米をじっくりと発酵させることでソフトな味わいが特徴のおいしさに仕上がっています。伊賀市の大田酒造「半蔵」は、伊勢志摩サミットのワーキング・ディナーで乾杯酒として提供され、今では在庫が無くなるほどの人気になっています。また名張市の木屋正酒造「而今」は全国で人気を誇る日本酒となっています。

(4)伊勢志摩エリア

①伊勢市の伊勢うどん、赤福餅

伊勢うどんは、伊勢地方独特の太い麺に、一瞬お醤油かと思うほどの黒い汁（たまり醤油にミリンを加えたもの）を絡めます。薬味はきざみねぎと七味とうがらしだけで食べる素朴な味

です。見た目は濃く感じられますが、意外とさっぱりしています。食べたらくせになる味です。



伊勢うどん

赤福餅は、伊勢の名物として全国的に有名です。なめらかでやわらかな餅と、きめ細かですっきりとしたあんこの調和が絶品です。夏限定の赤福氷も超美味しいスイーツです。また、赤福餅とよく似たもので、二見町の御福餅があります。食感など違いがありますが、御福餅のほうが好みという感想も多くあります。



赤福氷

②鳥羽市のとばーがー、浦村牡蠣

「とばーがー」は、伊勢えび、たこ、牡蠣、じゃこ、あわびなど、鳥羽産の新鮮な食材をパテにしたご当地バーガーです。鳥羽市内の限定販売なので、鳥羽に来たら必食です。

鳥羽市浦村では牡蠣の養殖が盛んです。牡蠣



焼き牡蠣

のシーズンになると焼き牡蠣小屋がパールロード沿いなどに軒を連ね、焼き牡蠣の食べ放題が楽しめます。牡蠣好きな方は食べ放題にチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

③志摩市の海鮮料理、てこね寿司

志摩市や鳥羽市では、海女小屋で伊勢志摩の海で獲れた海の幸や海女のおやつを食べるレアな体験ができます。伊勢エビ、アワビ、サザエ等、豪華な魚介をガッツリ食べることができます。

てこね寿司は、もともとは漁師の即席弁当といわれています。釣り上げたばかりの活きのいいカツオをブツ切りにして、御飯としょうゆを混ぜ合わせたもので、志摩市の郷土料理を代表するものです。

(5)東紀州エリア

①尾鷲市のさんま寿司

熊野灘で穫れた脂肪分の少ないさんまを背開きにし、塩つけしたものを水洗いし、これをさらにみかん酢につけ、すしご飯の上に尾、頭のついた姿のままのせたお寿司です。柑橘の匂いが食欲をそそります。

②熊野市のめはり寿司

めはり寿司は、たかな寿司とも呼ばれ、大きな握りなので口を大きくあけ、目を見張って食べなければならないことから名づけられました。炊きたてのご飯を二杯酢で味つけたたか菜漬



めはり寿司

で包んだ素朴なもので、イワシのすぼしなどを添えて食べます。

各地のグルメは、どれも満足できる美味しさです。三重県の美味しい料理は、まだまだたくさんあります。養殖マグロの「伊勢マグロ」も天然に劣らぬ美味しさ。三重県へお越しの際は、いろいろな食をご賞味ください。

4. 観光スポット

式年遷宮や伊勢志摩サミットの効果で三重県が注目を浴び、観光客の数は増加傾向にあります。そんな魅力ある三重県の観光スポットをご紹介します。

(1)レジャーランド・テーマパーク

①桑名市

三重県を代表するレジャーランドが「ナガシマスパーランド」。絶叫マシンなどのアトラクションが50種類以上あります。

花と緑のテーマパーク「なばなの里」。季節ごとのイベントが好評です。

②鈴鹿市

F1日本グランプリの開催など国際レーシングコース有する「鈴鹿サーキット」。モータースポーツの観戦や遊園地で楽しむことができます。

③伊勢市

安土桃山時代の歴史と文化が体感できるテ-

マパーク「伊勢・安土桃山文化村」。劇場や忍者屋敷など大人から子どもまで楽しめる多彩な施設が建ち並びます。

④志摩市

見て、遊んで、食べて、愉快的スペインを体験できる「志摩スペイン村」。絶叫マシンやパレードなど魅力あふれるテーマパークです。

(2)体験型施設

①伊賀市

自然・農業・手づくりのエコロジーファーム「伊賀の里モクモク手づくりファーム」。動物とのふれあいやウインナーやパンの手づくり体験ができます。ハム、ウインナー、地ビールなどの食も楽しむことができます。

伊賀の土豪屋敷を上野公園内に移築した「伊賀流忍者博物館（忍者屋敷）」。手裏剣打ちやどんでん返しなどが体験できます。

(3)水族館

①伊勢市

動物たちを間近で見、触れて、体温を感じることができる水族館「伊勢シーパラダス」。アシカやアザラシなどのアトラクションは人気です。

②鳥羽市

飼育種類数、日本一の「鳥羽水族館」。特に日本で唯一飼育しているジュゴンは見どころです。

③志摩市

マンボウの泳ぐ水族館「志摩マリンランド」。海女の餌付けショーや皮膚の角質を食べるドクターフィッシュの体験も好評です。

(4)パワースポット

①伊勢市

天照大御神が祀られている「伊勢神宮内宮」。内宮の入口である宇治橋をわたり、玉砂利を敷き詰めた長い参道を進むとそこは神域です。また、豊受大御神が祀られている「伊勢神宮外宮」。豊受大御神は、内宮の天照大御神のお食事を司る御饌都神であり、衣食住、産業の守り神とし

でも崇敬されています。

そして、内宮の門前町の「おかげ横丁」では、三重の老舗の味、名産、歴史、風習、人情まで、一度に体感できます。連日大勢の観光客や参拝客で賑わっています。

(5)自然体験

①三重郡菰野町

全長2161m、高低差780m、所要時間12分の空中散歩が楽しめる世界有数の規模を誇る「御在所ロープウェイ」。県内唯一のスキー場に多くのスキーヤーが集まります。四季折々に楽しめるスポットです。

②名張市

平成の名水百選、日本の滝百選、森林浴の森百選、そして遊歩百選にも選ばれた「赤目四十八滝溪谷」。室生赤目青山国定公園の中心に位置し、その長さは約4kmにも及びます。



赤目四十八滝溪谷

③熊野市ほか

2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコ世界遺産に登録された「熊野古道」。紀伊半島南部にあたる熊野の地と、伊勢や大阪・和歌山、高野及び吉野を結ぶ古い街道の総称です。

各地の観光施設をご紹介しましたが、三重県にはまだまだ山や海のレジャーがたくさんあり



熊野古道

ます。家族旅行の計画は三重県でいかがでしょうか。

5. ええとこ見つけた三重県

三重の人は真面目で、実直で、大らかです。そんな三重県民の生活を物語る、興味深いデータがあります。県民の1日の平均労働時間は、男性が6時間41分(全国43位)、女性が4時間39分(全国40位)。男女ともに、全国平均と比べ、とても短い労働時間です。一方、県民所得は全国第21位、貯蓄額は第10位。また、75歳以上の方の医療費は全国第39位となっています。

こうしたデータから、三重では健康的でゆとりのある心地よい暮らしが営まれているということがうかがえます。ええとこいっぱいです。

6. 今後の注目

三重県において今後注目されるビッグイベントは、平成29年4月～5月「第27回全国菓子博覧会・お伊勢さん菓子博2017」、平成30年8月「全国高等学校総体体育大会」、平成35年「第76回国民体育大会」が開催されます。

特に翌年に開催されます菓子博は、三重県では初めてであり、前売券の販売を開始しています。会場は伊勢市の三重県サンアリーナ及びその周辺となっています。全国の銘菓や三重県のグルメが堪能できます。

7. 地価概要

平成28年の地価公示で三重県の特徴は、「北高、南低」となっています。北勢・中勢エリアの県北部では、近鉄名古屋線の津駅、近鉄四日市駅、桑名駅に近い利便性の優る住宅地や商業地で上昇が見られ、伊勢志摩・東紀州エリアの県南部では、高齢化や人口の減少により下落が大きくなり、さらに沿岸部ではこれ以上の下落となっています。

また、三重県のパワースポットの1つで伊勢神宮があります。その内宮前のおはらい町通りには、連日観光客や参拝客で賑わいを見せており、ここに標準地(伊勢5-3)があります。この標準地は、他の商業地の上昇率より高い上昇率で推移し、さすがパワースポットの影響を受けている感じがします。

また、伊勢志摩サミットの効果が期待されていましたが、今となっては地価に影響を及ぼす効果はほとんどなかったように思えます。しか

し、世界的に伊勢志摩や三重県の知名度は上がり、観光地ではインバウンドによる効果が今後期待されます。

8. おわりに

伊勢志摩は今年、国立公園指定70周年を迎えます。1946年11月20日、戦後初めて誕生した国立公園です。この記念すべき年に地元伊勢市の劇団では、伊勢志摩地域の国立公園指定に尽力した石原円吉たちを題材にした舞台が行われました。このように伊勢志摩地域は、地元の人々に愛されていることがうかがえます。

最後に、今回は三重県の魅力的な食やレジャーを中心にご紹介してきました。紙面の関係上、まだまだ三重県の魅力を伝えきれないところはたくさんあります。この伝えきれなかった多くの魅力を三重県で直接感じてください。そうすればきっとこの地が好きになるかもしれません。この地を訪れて好きになったら一言つぶやいてください。「ええとこやんか」と。

